

1. 視察日時

令和元年10月31日（木）～令和元年11月1日（金）

2. 視察地及び視察内容

兵庫県明石市 明石市役所こども局待機児童緊急対策室

・待機児童解消の取組について

兵庫県姫路市 姫路市立 北部学校給食センター

・DBO方式による学校給食センターの整備・運営について

3. 視察概要

○明石市

明石市役所に於いて、こども局待機児童緊急対策室の担当者から説明を受けました。明石市では、平成27年1月に待機児童緊急対策室を設置し、量の確保（施設整備）と質の確保（保育士確保定着・保育士向け研修）を取組方針に待機児童対策を開始しています。

量の確保では、予算額で平成28年度1,886,982千円・平成29年度1,590,300千円・平成30年度3,522,822千円・令和元年度3,173,394千円と、大幅に予算額が増加しています。

質の確保についても、平成28年度48,820千円・平成29年度137,780千円・平成30年度227,737千円・令和元年度253,353千円と予算額が増加しており、またその予算の8～9割を保育士の処遇改善に充当しています。

待機児童対策室の設置以降、待機児童対策に大幅な予算を振り分けていますが、これは市長の考えのもと、他の建設事業等を減らし予算を確保しているとのことでした。

集中的に投資した結果、平成28年から平成30年度の3年間で、約3,750名の受け入れ枠と担い手である保育士の確保を実現しています。しかしながら、受け入れ枠の増加による需要喚起や保育所ニーズの高まり、出生数や転入により就学前児童数が予想を上回るペースで増加し平成31年4月現在、412名の待機児童が発生しています。今後は、2年間で2,000人規模の受け入れ枠拡充を行い、一刻も早い待機児童解消を目指す方針です。

財政が豊かな自治体という訳ではなく、選択と集中を行い効果的な投資を行うことで、目に見える実績を上げることができた詳細を知ることができました。今後、この知見を龍ヶ崎

市における待機児童対策に活かしたいと考えています。

#### ○姫路市

姫路市立北部学校給食センターに於いて、実際の調理業務を見学し担当者から施設の詳細説明を受けました。姫路市では、中学校の全員給食化を目指し、平成29年度に北部学校給食センターを整備しました。平成30年4月より、姫路市北部地域の中学校16校で全員給食を開始しています。

給食センターの整備・運営にあたっては、デザイン（設計）・ビルド（建設）・オペレーション（維持管理・運営）を包括して発注するDBO方式を採用しています。施設概要は、敷地面積5,810㎡、延床面積3,604㎡、調理能力8,000食（最大）。

敷地と民家が隣接した立地であり、建屋から民家まで10mほどの距離しかありませんでしたが、水フィルターを通し排気することにより、臭気に関する苦情は全くないとのことでした。敷地面積については、搬入口付近に車が転回するため駐車場3台分ほどのスペースを空けており、その面積が不足しているとのことでした。

DBO方式と業務毎に発注する従来の発注方式を比較した場合のコストメリットについては、明快なご回答は頂けませんでした。DBO方式を選んだ最大の理由は、新規に中学校給食を開始するため、センター運営のノウハウが無いことでした。龍ヶ崎市における状況とは違いがあり、当市でのDB方式による発注は、そのメリットを明確にして検討していく必要があることを、実際にお話を伺って認識しました。